

4 「神奈川の戦略」の取組状況

超高齢社会や人口減少社会への対応など非常に大きな課題を乗り越えるために、重点施策を分野横断的にとりまとめたプロジェクトを、さらに複合的に実施する取組みとしてまとめた「神奈川の戦略」の取組状況です。

神奈川の戦略とその構成プロジェクトは、以下のとおりです。

ヘルスケア・ニューフロンティアの推進

構成プロジェクト

| | | | | | |
|----------|--------|----------|-------|---------|-------|
| プロジェクト1 | 未病 | プロジェクト2 | 医療 | プロジェクト3 | 高齢者福祉 |
| プロジェクト4 | 障がい者福祉 | プロジェクト6 | 産業創出 | プロジェクト7 | 海外展開 |
| プロジェクト16 | スポーツ | プロジェクト18 | 地域活性化 | | |

ロボットと共生する社会の実現

構成プロジェクト

| | | | | | |
|----------|--------|----------|------|----------|-------|
| プロジェクト1 | 未病 | プロジェクト2 | 医療 | プロジェクト3 | 高齢者福祉 |
| プロジェクト4 | 障がい者福祉 | プロジェクト6 | 産業創出 | プロジェクト11 | 減災 |
| プロジェクト12 | 治安 | プロジェクト23 | 都市基盤 | | |

「グローバル戦略」の推進

構成プロジェクト

| | | | | | |
|----------|------|----------|------|----------|-------|
| プロジェクト7 | 海外展開 | プロジェクト8 | 観光 | プロジェクト9 | マグカル |
| プロジェクト15 | 教育 | プロジェクト16 | スポーツ | プロジェクト19 | 多文化共生 |

地方創生の推進

構成プロジェクト

| | | | | | |
|----------|--------|----------|---------|----------|------|
| プロジェクト6 | 産業創出 | プロジェクト8 | 観光 | プロジェクト10 | 農林水産 |
| プロジェクト13 | 男女共同参画 | プロジェクト14 | 子ども・青少年 | プロジェクト17 | 雇用 |
| プロジェクト18 | 地域活性化 | プロジェクト23 | 都市基盤 | | |

オリンピック・パラリンピック

構成プロジェクト

| | | | | | |
|----------|--------|----------|------|----------|-------|
| プロジェクト4 | 障がい者福祉 | プロジェクト8 | 観光 | プロジェクト9 | マグカル |
| プロジェクト12 | 治安 | プロジェクト16 | スポーツ | プロジェクト19 | 多文化共生 |
| プロジェクト23 | 都市基盤 | | | | |

ヘルスケア・ニューフロンティアの推進

これまでの主な取組み

- 国際シンポジウム「ME-BYOサミット神奈川 2017 in 箱根」を開催し、スマイル100歳社会の実現に向けた議論を行い「ME-BYO 未来 戦略ビジョン」を採択しました。この実現に向け県の取組みの方向性等を盛り込んだ「ヘルスケア・ニューフロンティア推進プラン」を策定しました。
- 外国人による家事支援サービスの提供など、特区を活用した取組みを進めました。
- 再生・細胞医療の産業化拠点である「ライフイノベーションセンター(LIC)」にこれまでに28事業者が入居を公表しました。さらに、LIC入居事業者を中心に「かながわ再生・細胞医療産業化ネットワーク」(RINK)の活動を進めました。
- 地域等の健康課題を解決する新たな社会システムを創出する「神奈川ME-BYOリビングラボ」の制度を立上げ、企業からの5件の提案を採択し、実証事業を行いました。
- 電子母子手帳、企業における従業員の健康管理での利用など、「マイME-BYOカルテ」の普及拡大を進めました。(利用者数 52,380人)
- 世界保健機関(WHO)が主導する、高齢者に優しい地域づくりに取り組む自治体等のグローバルなネットワークである「エイジフレンドリーシティ」について、県内市町村への参加の働きかけや支援を行い、19市町が参加しました。
- 保健福祉大学大学院新研究科(通称ヘルスイノベーションスクール)の2019年度の設置に向け、国へ設置認可申請を提出しました。

今後の取組み

- 「推進プラン」の実現に向け、未病(ME-BYO)や最先端医療・最新技術など6つの取組みを横断的に進めていきます。
- 一人ひとりの行動変容を促進し、県民の健康寿命延伸につなげるため、「未病指標」の第一弾として、メタボリスク指標及び改善プログラムを構築、活用していきます。
- LICを核とした再生・細胞医療分野の産業化を促進します。
- 民間と連携の上、組成した「ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンド」を活用し、ヘルスケア分野等のベンチャー企業への資金供給が行われるしくみを構築します。
- 「神奈川ME-BYOリビングラボ」について、企業、市町村、アカデミア等と連携した持続的なしくみの構築を推進します。また、特区を活用した取組みを引き続き推進します。
- 乳幼児期からの健康情報の電子化、ウォーキングなどの健康づくりの活用取組みを進め、企業や国・市町村等と連携して「マイME-BYOカルテ」の普及拡大を図ります。
- 2019年4月の保健福祉大学大学院新研究科開設に向けた準備を進めるとともに、国内外の大学や研究機関等との連携を進めます。
- 海外とのネットワークを活用し、県内企業の国際展開を支援するとともに、海外の先進的な技術や知見の県内への導入を進めていきます。
- 未病コンセプトの発信、人材の育成、新たな社会システムの構築などについて世界保健機関(WHO)と幅広く連携を図ります。

ロボットと共生する社会の実現

これまでの主な取組み

- 「さがみロボット産業特区」の期間が 2017 年度末までとなっていたことから、計画の継続に向けて国などと調整を行い、新計画を申請しました。
- 企業や大学などが持つ技術・資源を活用した共同開発のコーディネートや、早期の商品化が期待できる案件の重点的な支援を行いました。
- 実証会場やモニターの紹介、実際の利用状況に近い環境を用意したプレ実証フィールドを運営し、ロボットの実用化に欠かせない実証実験の促進に取り組みました。
- ロボットを実際に体験できる機会の創出や、現場におけるロボットの導入促進など、ロボットの普及・定着を推進しました。
- ロボットと共生する社会の実現に向け、多くの人々がロボットと共生する社会を実際に体験できるモデル空間の整備に取り組んでいくため、関係機関や施設などへのヒアリングを行い、具体的な整備のための検討を進めました。
- 市街地などでの自動運転実証実験を支援するとともに、自動運転への県民理解の促進や、機運醸成のための「自動運転フォーラム」を開催しました。
- 「さがみロボット産業特区」にロボット関連産業の集積を進めるため、「セレクト神奈川 100」による企業立地支援事業の認定を行いました(1 件)。
- 2017 年4月から、リハビリテーションロボットに関する専門的な相談窓口として、神奈川リハビリテーション病院内に「かながわりハビリロボットクリニック」を設置し、筋電義手をはじめ、リハビリテーションロボット全般の相談や実証実験の調整などを行いました。

今後の取組み

- 「さがみロボット産業特区」の第2期(2018 年度から 2022 年度)において、県民の「いのち」を輝かせるため、ロボット関連産業の創出・育成に向けた特区の取組みの「見える化」を推進し、あらゆる分野で生活支援ロボットが活用されるロボットと共生する社会の実現をめざします。
- 共同開発のコーディネートや、早期の商品化が期待できる案件の重点的な支援により、引き続きロボットの商品化、実証実験の促進に取り組みます。
- 辻堂駅北口周辺地域の商業施設や介護・医療施設を中心に、ロボットが日常生活の中で活躍する姿を公開していきます。
- 市街地などでの自動運転実証実験を支援するとともに、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会に合わせて、自動運転で来場者等を輸送する実証実験に取り組みます。
- 引き続き「セレクト神奈川 100」を推進し、県外・国外からロボット関連企業の誘致を促進します。

「グローバル戦略」の推進

これまでの主な取組み

- 県内中小企業の海外展開支援のため、民間事業者と連携し、留学生向けの合同会社説明会などを開催しました。また、無料スタートアップオフィス「IBSCかながわ」の提供や外国企業立上げ支援補助金などにより21社の外国企業を誘致しました。
- ライフサイエンス分野での協力などに関する海外先進地域・機関との覚書(MOU)に基づき、米国のスタンフォード大学と共同でシンポジウムを開催したほか、未病産業の国際展開に向けて、ビジネスマッチングなどを目的とする訪問団をシンガポールに派遣しました。
- 本県から派遣している世界保健機関(WHO)との連携を活かし、WHOが主導する、高齢者に優しい地域づくりに取り組む自治体などのグローバルなネットワーク「エイジフレンドリーシティ」について、県内市町村への参加の働きかけや支援を行い、19市町が参加しました。
- 開発途上地域などから政策研修員及び海外技術研修員を受け入れ、国際的なネットワークを形成、拡大しました。また、経済連携協定に基づき入国した外国人看護師・介護福祉士候補者の国家試験合格の支援を行いました。
- 医療現場への通訳派遣や、かながわ国際ファンクラブの活動を通じた留学生の支援、「あーすフェスタかながわ 2017」の実施のほか、保健医療、子育てや災害に関する問い合わせに多言語で応じる「多言語支援センターかながわ」の運営により、多文化共生社会の実現を図りました。

今後の取組み

- 海外展開をめざす中小企業を対象とした勉強会を開催するとともに、民間企業や関係機関などと連携し、グローバル人材を確保するための留学生を対象とした合同会社説明会や神奈川インダストリアルパーク事業を実施するなど、企業の段階に応じたきめ細かな海外展開支援を行います。
- 「セレクト神奈川100」を活用して外国企業の誘致活動を実施します。
- ヘルスケア・ニューフロンティアを推進する国際的な人材の育成などのため、世界保健機関(WHO)と連携した取組みを推進するとともに、海外機関との覚書(MOU)などにより構築した協力体制を活用し、各機関と連携した事業展開を行います。
- 引き続き、芸術を介した海外との相互交流や地域におけるアートの拠点を県内各地で育むため、県内各地で国際的なアーティスト・イン・レジデンス事業を支援します。
- 政策研修員及び海外技術研修員の招聘を継続的に実施するとともに、かながわ国際ファンクラブ事業をより効果的に実施することで、人的ネットワークの拡充を図ります。
- 引き続き、経済連携協定に基づき入国した外国人看護師・介護福祉士候補者の国家試験合格の支援を行います。
- 多文化共生社会の実現に向けて、引き続き、医療現場への通訳派遣や、外国人留学生の受入れ拡大の支援、「あーすフェスタかながわ」の開催、「多言語支援センターかながわ」の運営を行います。
- グローバル戦略については、国際ネットワークが広がり厚みを増すよう、将来を見据え、継続性のある取組みを進めていきます。

地方創生の推進

これまでの主な取り組み

- 県の地方創生を推進するため、神奈川県地方創生推進会議を設置し、「神奈川県人口ビジョン」及び「神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定(2016年3月策定、2017年3月、2018年3月一部改訂)しました。
- 県内にしごとをつくり、安心して働けるようにするため、神奈川らしい成長産業として、未病産業の創出・育成に向けて、「未病産業研究会」において企業間の交流などの促進を図ったほか、展示会「ME-BYO Japan」の開催や、「ME-BYO BRAND」認定などを行いました。また、ロボット関連産業の創出・育成に向けて、生活支援ロボットの商品化に向けた支援などを実施しました。
- 神奈川への新しいひとの流れをつくるため、「新たな観光の核づくり促進交付金」を活用して「新たな観光の核づくり」地域における先導的事業を実施しました。
- 若い世代の子育てなどの希望をかなえるため、保育所等定員の増加を図るとともに、放課後児童クラブ、放課後子ども教室、土曜日の教育活動支援事業を運営・実施する市町村に対する支援を行いました。また、特区を活用して県独自の地域限定保育士試験を実施するなど保育士確保に向けた対策を行いました。
- 県への移住を促進するため、神奈川の魅力を紹介した映像、市町村と連携した県ウェブサイトを作成するとともに、県内のくらしやしごとの情報を提供する「ちょこっと田舎・かながわライフ支援センター」(2015年12月・都内に設置)において移住相談などを行いました。
- 「かながわシープロジェクト」、「県西地域活性化プロジェクト」、「三浦半島魅力最大化プロジェクト」により地域活性化を図るため、専用Webサイトを活用した情報発信や、モデルツアーなどを実施しました。また、宮ヶ瀬湖周辺地域の新たな観光地域づくりを推進するため、「レイクスポーツフェスティバル」などのイベントやモニターツアーなどの観光プロモーションを実施するなど、DMO法人((公財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団)の活動を支援しました。

今後の取り組み

- 県内にしごとをつくり、安心して働けるようにするため、神奈川の成長力を生かした神奈川らしい成長産業の創出などを通じて、経済のエンジンを回すことにより、安定した雇用を生み出すことをめざします。
- 神奈川への新しいひとの流れをつくるため、神奈川のマグネット力を高め、神奈川のライフスタイル、先進的な社会モデル、地域資源を活用した魅力などを発信することで、国内外からヒト・モノ・カネを引きつけます。
- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、結婚から子育てまでの切れ目ない支援や女性の活躍支援を通じて、安心して結婚、出産、子育てができる環境を整えるとともに、妊娠・出産などに関する知識の普及などを進めます。
- 活力と魅力あふれるまちづくりを進めるため、未病を基軸とした取り組みや健康長寿のまちづくりを進め、超高齢社会を乗り越える社会システムを創っていきます。
- 市町村とのさらなる連携を推進し、神奈川全体の地方創生を着実に進めていきます。

オリンピック・パラリンピック

これまでの主な取組み

- セーリング競技開催準備のため、関係機関との調整を行いました。また、競技開催の機運を盛り上げるため、小・中・高校生などを対象とした海上体験会(2017年7月～10月、参加者267人)及び地域住民が多く集まる市民祭りなどにおいて出張型体験会を開催しました(2017年6月～9月、参加者数2,167人)。
- テラスモール湘南(藤沢市)において、東京2020大会1000日前イベントを開催しました(2017年10月、来場者数約5,500人)。
- 民間団体、関係市町及び県がブータン王国と事前キャンプに関する協定(2017年4月)を、また、競技団体、相模原市及び県がカナダ(ボート協会)と事前キャンプに関する覚書(2018年1月)をそれぞれ締結しました。
- 様々な実施主体が行う県内の文化イベント等について、市町村や民間団体等と連携して一体的、効果的にアピールしていくため、神奈川文化プログラム認証制度を新たに設けました(2018年1月)
- 東京2020大会に「神奈川育ちのオリンピック」が40人出場することをめざし、アスリートや指導者を支援する「アスリート育成事業」(選手80名、指導者7名、指導者講習会実施3団体)を、「神奈川育ちのパラリンピアン」が20人出場することをめざし、アスリートや指導者を支援する「パラリンピアン育成事業」(選手35名、指導者2名)を実施しました。
- 「かながわパラスポーツ」普及のため、「かながわパラスポーツフェスタ2017」を開催しました(2017年8月、10月、11月に計3回開催、参加者数約2,200人)。
- セーリング競技の成功と、湘南港の機能強化や江の島地域の活性化を図るため、江の島大橋の拡幅整備に着手しました。また、大会実施時における湘南港の艇の移動先確保と大会後もセーリングを広く県民に普及させるため、葉山港の船舶保管地を改修しました。

今後の取組み

- 関係機関との調整を引き続き進めます。また、各種セーリング体験会など、セーリングの魅力を発信する取組みを拡充するとともに、周年イベントの開催など、大会全体の盛り上げに資する取組みを実施します。
- 東京2020大会セーリング競技の円滑な実施を支えるとともに、将来にわたってレガシーとして活用する湘南港の港湾施設などの整備・改修を実施します。
- 事前キャンプ誘致に係る情報発信や各国の視察受入の実施など、効果的な誘致活動を引き続き展開します。
- 東京2020大会の機会を捉えて、県内全域で神奈川らしい魅力ある文化芸術のコンテンツの創出を図り、マグカル(マグネット・カルチャー)の全県展開を推進します。
- 東京2020大会へ「神奈川育ちのアスリート」が出場することを目標に、有望なアスリートの育成・強化などを引き続き実施します。また、パラリンピック競技の普及・選手の発掘を目的とした競技イベントの開催を引き続き実施します。
- 地域で活動する人材の育成など、地域で「かながわパラスポーツ」が継続的に実践される取組みを引き続き検討・推進します。

